

10. 百日咳について

1. 原因及び感染経路

百日咳菌による飛沫感染で口や鼻から吸った空中に浮遊する菌により感染します。潜伏期は1～2週間です。経過はカタル期、けい咳期、回復期を経て治癒に向かいます。

カタル期とは、約1～2週間で咳、鼻汁、結膜炎、くしゃみ、の症状がある。熱はほとんどなく、咳が夜間や早朝に多くみられます。感染力の強い期間です。

けい咳期とは、約4週間で、咳が強くなります。発作的に10回以上の咳を連発し呼吸も笛様な声を発します。これをレプリーゼあるいはフープと言います。透明で粘調な痰を出し、ひとまず咳がやみます。独特な咳であるため、百日咳を疑う症状です。

回復期とは、約2週間で咳の間隔が長くなり強さも弱まります。次第に治癒しますが、1ヶ月くらいは伝染のおそれがあります。

2. ケアの具体的方法と注意

- 食欲不振や咳の連続で嘔吐したりするため、栄養状態が悪くなる場合があるため、栄養に留意してください。清潔に留意し、安静にします。
- 肺炎や気管支炎や脳の合併症を起こす事もあるため、充分症状の観察を行ってください。また、潜在性の結核や持病が活動始めることがあるため、症状に応じて早めに治療が必要です。

3. 家族への説明

安静と栄養と保温、手洗い、うがい、マスクが基本になります。

また、抗生剤の投与により症状を和らげ、早く治癒することにつながるので早めに医師にみてもらいましょう。他の人に感染しないようにできるだけ回復後1ヶ月は出歩かないように協力してください。

4. 家族への安全対策

麻疹について感染率が高いです。予防としては百日咳ワクチンを注射する事もありますが免疫効果は2～4ヶ月要します。

感染の可能性が高い場合は早めに抗生剤を投与する事もありますので早めに医師に相談しましょう。

飛沫感染、接触感染なのでうがいやマスク、また痰や鼻汁の取り扱いに注意しましょう。

5. その他

- 治療としてはエリスロマイシン、やクラリスロマイシンなどマクロライド系の抗生物質が有効です。早めの治療が効果を高めます。また、感染の予防になりますので医師とよく相談して治療を受けましょう。
- DPT 3種混合ワクチンは生後3～90ヶ月に3回と11～12歳に1度うけます。DTの2種ワクチンをうけます。
- 2種混合ワクチンによる予防接種が行われていますが、6～10年で減少していくので注意が必要です。実際罹患した方は終生免疫が得られるともいわれていますが、2度かかる方もいるので注意が必要です。